

アンニョンハセヨ～そして… カムサハムニダ～

エスペランサフットボールクラブ

代表 山根 則 義

去る2月22日から24日までの3日間、韓国の少年サッカーチーム「光明 (ケアンニョン) FC」との交流イベントが行われ、我々エスペランサFCもヴィッセル神戸さんのご厚意により、交流試合に5、4、3年生が参加させていただき、また4年生につきましては、韓国選手団24名を12軒の部員宅にてホームステイの受入れを行い、大変貴重な経験をさせていただくことができました。本当にありがとうございました。

今でも鮮明に記憶しております。1月17日、ヴィッセル神戸さんより、「韓国の少年サッカーチームが来日し、交流イベントをやるのですが、交流試合とホームステイを御願いできないでしょうか？」とお話を頂き、エスペランサ保護者の方の了解を得る前に、「是非ともやらせていただきます」と即答を致しました。今から思えば、すぐに「やります」とよく返事ができたものだと思っております。通常であれば、このような話があった際に、予め了解を得るのですが、一生に一度あるかないかの貴重なチャンス、このことを選手や保護者の方へ誠意を持ってお伝えすることができれば、必ずご理解、ご協力を得られるはずとの確信があったからこそだと思えます。

保護者の方への内容の説明会はイベントの2週間前、いったい何軒の家庭が手を挙げてくれるか不安と期待で一杯でしたが、ほとんどの家庭が「是非協力させていただきます」と前向きな発言ばかりをいただきました。その日から当日まで保護者の方同士の情報交換、また闘争心？で、ものすごい一体感が生まれたように感じております。

いよいよ待ちに待った来明当日の22日夕刻に、ピックアップ場所のポートアイランド北公園から韓国選手団24名をマイクロバスにて、エスペランサの4年生の選手と保護者の方々が待つ大久保南小学校コミセン会議室へ。2名のエスペランサの卒団部員と保護者、そして朝鮮学校先生の通訳の協力を得て、各家庭へ無事引き渡すことができました。お互いに緊張と言葉が通じないこともあり、口数も少なく、なんだかよそよそしい雰囲気の一昨日の夜。韓国選手もエスペランサの子供たちも黙々とカレーを口に運んでいたとのこと。おかげで？消灯時間も早く、疲れている子供たちにはいい休養になったかと思えます。

翌日はお互いに別々の会場での試合となっていたので、韓国選手団は王子公園へ、エスペランサは淡路へ。見送りのための集合場所ではまたまた夕食や朝食、お風呂の様子など活発な情報交換がなされましたようです。やはりどの家庭でも遠慮していたのでしょうか、ご飯はあまり箸が進まなかったようでした。その中でも「あれは良く食べた」という情報は大変貴重で、早速参考にされていたようです。

夕刻になり、再度お迎えに。韓国選手たちを待つ保護者の方の目は、今か今かと我が子を待つ目になっておられました。

さて、夕食のメニューですが、各家庭で同じようなメニューでということだったようで

す。一日目は、カレーライスと一品。二日目は、「日本らしい」ものにしましょうとのことで、「手巻き寿司」、「たこ焼き」、「鉄板焼き」、「牛丼」、「餃子」、「焼きそば」…各家庭で心のこもった料理が食卓を飾ったようです。二日目の夜は、日中が試合だったことや、また緊張もほぐれたようで、一日目とは違い、アットホームな雰囲気でも食欲も旺盛だったとのこと。

奇しくも二日目の夜は、東アジア選手権の韓国対日本戦。こんな偶然は作ろうと思っても作れるものではありません。昼間は子供たち同士の日韓戦、夜にはA代表の日韓戦、そして、その後は深夜遅くまで、サッカーゲームで日韓戦とこれ以上はないほどの日韓交流戦が繰り広げられました。

最終日三日目の朝、韓国選手団とエスペランサの選手は、保護者の車で一緒にいぶきの森へ。いぶきの森という素晴らしい環境の下で、5、4、3年生が光明FCさんとヴィッセル神戸Jr.さんとゲームをすることができました。やはり韓国選手たちの勝負への執念、厳しさは目を見張るものがありました。ピッチの中と外では目つきも違っており、韓国選手たちの意識の高さは、エスペランサの選手たちにとっても参考になりました。我々スタッフも、スタッフ日韓交流戦へ出場させていただき、非常に楽しい時間を過ごさせていただきました。

楽しく、また夢のような時間は瞬く間に過ぎ、いよいよお別れのときが来ました。マッチスケジュールの関係上、既に大方の韓国選手団がバスに乗り込んでおられ、もう会えないのかと思っていましたが、最後に再び受け入れ家庭と最後のお別れの時間を設けていただけました。既に我が子の如く可愛い韓国選手たちと受け入れた家庭の選手たちと保護者の別れの挨拶の様子、またバスを見送る様子は、見ていた我々スタッフも胸が熱くなり、双方で涙を流しながら手を振る光景は、サッカーというスポーツを通じ、言葉は通じなくとも、心が通い合うことができる象徴的な場面であったと思います。エスペランサの保護者の方より、私どもスタッフに対し、「もう帰られるのですか？あと何泊か泊まっていて欲しい…」と何名もの方から頼まれました。利己主義、無関心…などネガティブな言葉が飛び交う昨今で、今の時代の大人たちが忘れかけている「自分ではない誰かのために…」、「心と心が通い合う」は、今ここにあると確信致しました。

最後になりましたが、今回の韓国「光明FC」との交流イベントにおきまして、韓国よりお越しいただいた選手たち、スタッフの皆さま、保護者の方々、また、このような貴重な機会をご提供いただいたヴィッセル神戸さん、そして、ホームステイで協力していただいたエスペランサの選手たちとその保護者の方々に心から御礼申し上げます。この度の一連のイベントを通じ、エスペランサのスタッフと選手、保護者との信頼感や保護者の方々同士の一体感、そして何より、親子のコミュニケーション、絆が更に強くなる機会になりました。これからも、様々なイベントなどを通じ、ヴィッセル神戸さん、エスペランサFCとともに益々活躍発展していくことを心から祈念し、お礼の言葉とさせていただきます。

添付資料：はじめまして。アンニョンハセヨ～から、そしてカムサハムニダ～



アンニョンハセヨ～、そして各家庭へ
(於：大久保南小学校コミセン会議室)



二日目の夜は「たこ焼き」
(右の2名が韓国選手)

リラックスした雰囲気食欲もアップ！



お別れの日の朝…一雛人形の前で—
(右上の2名が韓国選手)



日韓交流戦（4年生の試合）
—雪の中での白熱したゲーム—
（いぶきの森グラウンド）



今回のイベントに際し、韓国戦選手団の
代表の方からご挨拶



最後のご挨拶…
（後列の2名が韓国選手）



バスを見送るヴィッセル神戸 Jr.と
エスペランサの選手の選手と保護者



みんな手を振りながら
「カムサハムニダ～」
またどこかで会いましょう！